

2011年6月9日
中日本高速道路株式会社

2011年3月期 決算概要（連結）

1. 業績の概況 当連結会計年度（自 2010年4月1日 至 2011年3月31日）（単位：億円）

	2010年度 (第6期) A	2009年度 (第5期) B	増 減		2011年度 (第7期) 計 画※4
			金額 A-B	% A/B*100	
営業収益	6,592	5,815	777	113.4	5,669
高速道路事業	6,079	5,356	722	113.5	5,209
(料金収入)	4,422	4,468	▲46	99.0	4,358
(道路資産完成高等)	※2 1,656	※3 887	768	186.6	851
関連事業	513	458	55	112.1	460
(休憩所事業)	340	297	42	114.4	372
(その他)	173	161	12	107.7	88
営業費用	6,493	5,717	776	113.6	5,593
高速道路事業	6,042	5,330	711	113.3	5,199
関連事業	451	387	64	116.7	394
営業利益	99	97	1	102.0	76
高速道路事業	36	25	11	143.7	10
関連事業	62	71	▲9	87.0	66
経常利益	111	109	1	101.5	66
当期純利益	65	55	10	118.2	39

※1 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※2 2010年度の道路資産完成高等には、無料化社会実験に伴う国からの負担金（199億円）を含みます。

※3 2009年度の道路資産完成高等には、料金社会実験等に伴う国からの負担金（4億円）を含みます。

※4 2011年度計画は、平成23年度事業計画を前提としております。実際の業績は、さまざまな要素により、上記計画数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

(注) 事業内容の種類、性質等の類似性、損益集計区分及び関連資産に照らし、以下のように事業区分を行っております。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営	
その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、カードサービス事業等	

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

①ネットワークの整備

名古屋第二環状自動車道（名古屋南 JCT～高針 JCT 12.7 km） 2011年 3月20日開通

②利便性の向上

長野自動車道 梓川スマートインターチェンジ 2010年 11月27日完成

③災害復旧

駿河湾を震源とする地震により発生（2009年 8月 11日）した東名高速道路牧之原地区の盛土のり面崩壊箇所の本復旧工事の完了（2010年 6月 8日）

(通期業績)

- ・高速道路事業では、景気の緩やかな持ち直しや無料化社会実験の影響によりご利用台数が増加（対前年度 109.3%）しました。
- ・料金収入や道路資産完成高などを合わせた営業収益から、道路資産完成原価や日本高速道路保有・債務返済機構への道路資産賃借料（3,286億円）などの営業費用を差し引いた結果、高速道路事業営業利益は、36億円となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

休憩所事業では、人気店舗を多数取り入れた複合商業施設化などをすすめ、移動の通過点に過ぎなかったサービスエリアから目的地として選ばれる新しいスタイルをめざした「EXPASA（エクスパーサ）※」をオープンさせました。

◇東名阪自動車道 EXPASA御在所[Ⓐ]_Ⓑ（31店舗：[Ⓐ]15店舗、_Ⓑ16店舗）
2010年 9月17日グランドオープン

◇東名高速道路 EXPASA足柄[Ⓐ]_Ⓑ（44店舗：[Ⓐ]20店舗、_Ⓑ24店舗）
2010年 11月25日グランドオープン

◇名神高速道路 EXPASA多賀_Ⓑ（17店舗）
2010年 11月 3日グランドオープン

※「EXPASA（エクスパーサ）」とは、既存のSA・PAの概念を超えるという意味を込め、「exceed」（超越）などの「EX」と、パーキングエリアの「PA」、サービスエリアの「SA」を組合せた商業施設のブランドネームです。

(通期業績)

関連事業では、交通量の増加に伴うお客さまのご利用増やEXPASAをはじめとする新規店舗展開などにより増収となりましたが、サービスエリアのリニューアルに伴う費用や運営管理費も増えた結果、関連事業営業利益は、62億円となりました。

以上